

## 2.被災者支援の強化策の検討

## ■避難所に必要な設備・資機材、要件の整理

- ライフラインやトイレの確保等、避難所運営に必要設備・資機材を整理し、指定避難所での確保に努める。
- 併せて、多目的スペースやペット向けのスペース等、女性や外国人等の多様な被災者に対応するための避難所運営上検討すべき事項を整理した。

## ■避難者へのトイレ確保の検討

- 過去の災害における仮設トイレの設置状況や、スフィア基準等を踏まえた考え方を整理し、災害時のトイレ確保に必要な備蓄について検討し、備蓄計画に反映する。
- トイレの必要個数は、最終的にスフィア基準等を満たすよう、段階的に確保する。
- 日ごろから活用している掃除道具やトイレ関連備品（清掃用具等）を最大限活用することとし、災害時に急速に需要が増加し、3日間の避難生活の中で不足が想定される備品を備蓄品の対象とする。  
【備蓄品の対象物】 ・トイレットペーパー      ・生理用品      ・サニタリーボックス（黒いごみ袋）  
                        ・ペーパータオル                 ・掲示物

## ■デジタル技術の導入による円滑な被災者支援

- デジタル技術として下記を導入・活用することで、円滑な被災者支援を目指す。



出典：内閣府資料（[https://www.bousai.go.jp/pdf/250228\\_kouhyou2.pdf](https://www.bousai.go.jp/pdf/250228_kouhyou2.pdf)）

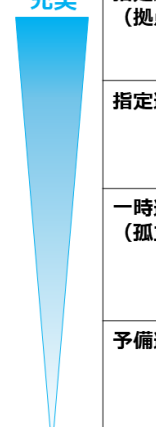
## ■避難所カルテの作成

- [illegible]

図 2. 避難所カルテイメージ

## ■指定避難所等への避難環境整備の基本的な考え方

- 表2. 避難所ごとの避難環境整備の考え方

備蓄状況	項目	概要
<div>充実</div>  <div>確保</div>	<b>指定避難所 (拠点)</b>	<b>【定義】</b> ・指定避難所のうち、地区のバランス、人口割合等を考慮して備蓄等を強化した中学校下単位などに設ける地域の拠点となる避難所 <b>【避難環境整備の考え方】</b> ・中長期的に避難生活を送ることができるよう、必要な設備・食料・資機材を充実させる
	<b>指定避難所</b>	<b>【定義】</b> ・原則として学校等の市及び県の管理する施設の中から選定 <b>【避難環境整備の考え方】</b> ・被災者が一定期間生活するために必要な設備の整備や避難所開設・運営に必要なとなる最低限の食料・資機材を備蓄
	<b>一時避難所 (孤立)</b>	<b>【定義】</b> ・自助・共助の観点から地域の自主防災組織あるいは町内会単位で運用し、市の指定する避難所に至る前の中継拠点などとして避難者が一時的に集合する公民館等のうち、地震時に孤立することが想定され、指定避難所まで到達できない町内にある公民館等 <b>【避難環境整備の考え方】</b> ・災害などの緊急時の一時的な避難のために必要な避難所開設・運営に必要なとなる最低限の食料・資機材を備蓄
	<b>予備避難所</b>	<b>【定義】</b> ・災害の規模に応じて、災害対策本部が必要と認めたときに開設する予備的な避難所 ・地域の自主防災組織あるいは町内会が予備避難所を町内避難場所（一時避難所）として活用することを妨げるものではない ・避難者が多数になり、指定避難所への受入れが困難となった場合または、学校施設となっている指定避難所で学校再開のために避難者に二次避難を促す必要が生じた場合に、当該避難者を受け入れるために開設 <b>【避難環境整備の考え方】</b> ・原則として現状の設備を活用し、食料・資機材等は備蓄しない